

令和 6 年度 草津市校長会 代表の柴原 力先生よりお言葉をいただきました。

「教員としての自覚と責任」

松原中学校 校長 柴原 力

教員を退職するにあたり、年度も押し迫ると、いろいろな関係機関から原稿を依頼されます。この種の原稿を書くという行為は、自分のこれまでを振り返るとともに、これからも大切にしなければならないことが整理され、雑多な日々には持てない貴重な機会となります。

先日、ある原稿に、教員という仕事を続けていくうえで、教員以外の人とつながりを創ることの大切さについて学んだということを書きました。教員最後のこの時期になって、今、たくさんの方々に支えられながら今日までやってこられたことや、今現在もたくさんの方々から力を貸していただいていることを痛感しています。

またある原稿には、自分の周囲の人間、子どもから大人まで、一人ひとりに「耳」「目」「心」を傾けて、受け入れる姿勢の必要性について書きました。一人間として、これからも、まずは「人に傾聴する」ことを大切にしていきたいと考えています。

そして、今日も本校 PTA 広報の原稿を仕上げたばかりです。卒業にあたり卒業生へのお祝いのメッセージを次のように書きました。

「明日からの長い人生、失敗はつきものです。しかし、その失敗は成功への過程でしかありません。人によっては何回も何回も失敗を繰り返すかも知れません。失敗しても立ち上がってください。大切なことは、失敗しても立ち上がることです。」と。この言葉は、卒業生に贈ると同時に、自分自身にも言い聞かせています。

不易流行という言葉にあるとおり、私が教員として採用された時から現在までを思い起こすと様々な時代の変化がありました。それに合わせて、成功に向けて失敗を重ねながら様々なことに取り組んできたことから、教育は不変であると思わされることが度々ありました。一方で、変えていく必要があることについては、柔軟に対応しようとしてきたように感じます。

これからの日本の将来にとって最も大きな問題は「少子化」で、その次が「教育」と言われています。日本の未来を担う「人」を育成する教育に携わる者として、自覚と責任を持ち、不易流行の精神で挑戦していきたいものです。



令和6年度 草津市教育研究奨励事業

今年度も多くの先生方が本事業に応募し、取り組んでくださいました。ありがとうございました。

教育研究奨励事業は、市内の教職員・保育士の自発的な教育研究活動の促進を図るため、個人またはグループの研究に対して奨励賞等を授与しています。研究に取り組む中で、教育・保育現場における意欲的かつ創意あふれる学級、学年、学校・園・所の経営ならびに学習指導法の改善と充実につながることで、教職員・保育士の資質向上、草津市の教育・保育の向上を図ることを目的としています。

今年度の応募状況は以下の通りで、応募総数は37点でした。

	保・幼・ こども園	事務	小学校	中学校	合計
①就学前教育研究部門	3点				3点
②ステップアップ研究部門		2点	5点	3点	10点
③フレッシュ研究部門			16点	8点	24点
	3点		21点	11点	37点

若い先生方が多数チャレンジしてくださり、また継続して応募してくださった方もおられました。今年度は事務の方々からも応募してくださいました。研究主題は、児童生徒が主体となる授業づくりやICTの活用などに関するテーマが多く見られました。

令和6年度 草津市教育研究奨励事業表彰式の開催

令和7年2月28日（金）に、教育研究所2階研修室において、草津市教育研究奨励事業表彰式を行いました。草津市立教育委員会 藤田雅也 教育長より賞状、草津市教育会 山元 孝子 会長より副賞が授与されました。おめでとうございます。



今年度御応募いただいた研究主題および審査結果の一覧を次のページに掲載しています。また、受賞者の研究論文の一部は [Teams の「教材共有ポータルサイト」の 08 教育研究所のファイル](#) に掲載していますので、ぜひ御一読ください。さらに、次年度夏季休業中の研究発表大会において、特別賞・最優秀賞・優秀賞・教育研究所賞に輝いた方の中から数名、研究内容を発表していただく予定です。

今後とも教育研究所の研究奨励事業への御支援、御協力をよろしくお願いします。



令和6年度 研究奨励事業 審査結果

部門	学校名	形態	応募者(グループ名)	研究主題	賞区分
就学前 教育研究部門	1 矢倉こども園	個人	竹内 智美	子ども大人も心動かされ、つながっていく小学校との連携・接続を目指して～互いを知る・関わる・つなげていくための取り組みを通して～	教育研究所賞
	2 山田こども園	グループ	今年度もぼちぼちいこかの会	個と組織を活かし、相乗効果を生み出す園経営の在り方～「えがく・みがく・かがやく」の実現を目指して～	奨励賞
	3 草津中央おひさまこども園	グループ	わくわくする保育を考える会	とびだせ！おひさま探検隊～体験から広がるわくわくの世界～	優秀賞

ステップアップ 研究部門	1 高穂中学校	個人	寺田 幸子	会計事務の改革！一括管理をめざした取り組み	奨励賞
	2 草津小学校	グループ	なでしこ932研究会	草津小学校におけるクライシスマネジメントの確立～心的ケアを重視した「緊急支援体制なでしこプログラム」の提案～	最優秀賞
	3 草津中学校	個人	水谷 哲郎	「中学校社会科における概念的知識の習得を目指した単元開発」～より高次の知識・技能の習得と活用を目指して～	優秀賞
	4 笠縫東小学校	個人	山下 冬馬	ICTを効果的に活用した子どもたちの自信や意欲を培う授業の創造	奨励賞
	5 笠縫東小学校	個人	吉田 郁弥	子どもたちが「作りたい！」と思える授業を目指して～図画工作科「くるくるクランク」を通して～	奨励賞
	草津市立小中学校事務共同実施推進協議会	グループ	未来部会	「共同実施の未来を楽しく」有志による取り組みと効果について	最優秀賞
	7 常盤小学校	個人	小森 裕美	子どものやる気に火をつける 総合的な学習の時間のデザイン	特別賞
	8 新堂中学校	グループ	新堂中学校 教育相談部会	不登校(傾向)生徒にとって安心・安全な学校づくり！～step roomの取り組みをとおして～	奨励賞
	9 草津第二小学校	個人	森本 聡	走ることが苦手な児童が「動きたくなる」「取りたくなる」活動の実践～体育科 タグラグビーの活動を通して～	奨励賞

フレッシュ 研究部門	1 老上小学校	個人	佐々木 亮良	「苦手」を「できる」に変えるために～視覚支援を活用した算数科教育～	奨励賞
	2 老上小学校	個人	大下 咲	読書に進んで取り組み、豊かな表現力が身につく子どもの育成	奨励賞
	3 笠縫東小学校	個人	茨木 洸哉	思いを伝え合い、ともに学ぼうとする子どもの育成～ロイロノートを活用した国語科の学習を通して～	奨励賞
	4 笠縫東小学校	個人	重松 咲良	誰もが安心して過ごせる学級づくりを目指して	奨励賞
	5 志津南小学校	個人	水野 颯人	主体的に学級をよりよくしようとする児童の育成を目指して～リーダーチャートの活用を通して～	最優秀賞
	6 玉川中学校	個人	鶴田 昂平	「生徒、保護者が納得し、成長していく生徒指導を目指して」	奨励賞
	7 玉川中学校	個人	引地 顕秀	事前テストを利用し単元のゴールを明確化した数学科学習指導	奨励賞
	8 草津中学校	個人	西山 真司	教職員の人権感覚の向上を生徒指導に生かすことを目指して	奨励賞
	9 高穂中学校	個人	池本 ひな	国際理解における有効的な授業実践	奨励賞
	10 老上中学校	個人	山崎 龍馬	自ら考え発信する英語言語活動の実践～スクールESDくさつプロジェクトの視点より～	奨励賞
	11 玉川小学校	個人	小西 瑞紀	「当たり前」を大切に～短期目標を掲げて、成長を実感できる学級経営を目指す～	奨励賞
	12 矢倉小学校	個人	國松 佳奈	特別支援を要する児童の学習意欲向上についての実践研究～一人ひとりに合った環境調整と、教材研究を通して～	奨励賞
	13 矢倉小学校	個人	山中 克基	「目指せ！モンキージャンプ！美しいかえこみ跳び」～主体的対話的で深い学びを生かして～	奨励賞
	14 笠縫小学校	個人	大下 一真	「二十日大根を育てよう」物事を最後までやり抜く力と観察する力の育成を目指して	奨励賞
	15 笠縫小学校	個人	油谷 優	「話して聴いて、考えて」対話を深めるための質問名人になろう	奨励賞
	16 老上西小学校	個人	岩村 空	小学校国語科において自ら考え、ことばで伝える子どもの姿を目指して～「ごんぎつね」の授業実践を通して～	奨励賞
	17 老上中学校	個人	寺田 慧	科学的に考え、表現する授業を目指して	奨励賞
	18 山田小学校	個人	小西 由依	主体的に国語科に取り組む姿の育成を目指した実践研究	奨励賞
	19 志津小学校	個人	山下 晃弘	感覚統合理論をもとに、身体機能・認知機能の向上を目指して	優秀賞
	20 渋川小学校	個人	森田 壱生	よさを見つけ互いに認め合うことを通して児童の自尊感情・自己肯定感を育む学級経営	奨励賞
	21 草津第二小学校	個人	東谷 真依	望ましい人間関係を育てる学級経営	奨励賞
	22 松原中学校	個人	山本 清秀	ICT機器と教材を有効活用した指導によって、理科に関する意欲を高める	奨励賞
	23 松原中学校	個人	山崎 和	外国語指導における学習者用端末の活用について	奨励賞
	24 新堂中学校	個人	佐竹 二三也	中学生の数学的興味と思考力を引き出す授業デザイン～「現時点で表現できない数字」を探る～	最優秀賞
	25 南笠東小学校	個人	中山 初華	「わかった」「できた」を実感できる授業づくり～自分にぴったりの考え方を見つけよう～	奨励賞

御応募、ありがとうございました！
来年度も御応募をお待ちしております。



研究主題 不登校児童生徒の社会的自立に向けた支援の在り方に関する研究
～登校支援室の運用と教職員の関わりを通して～

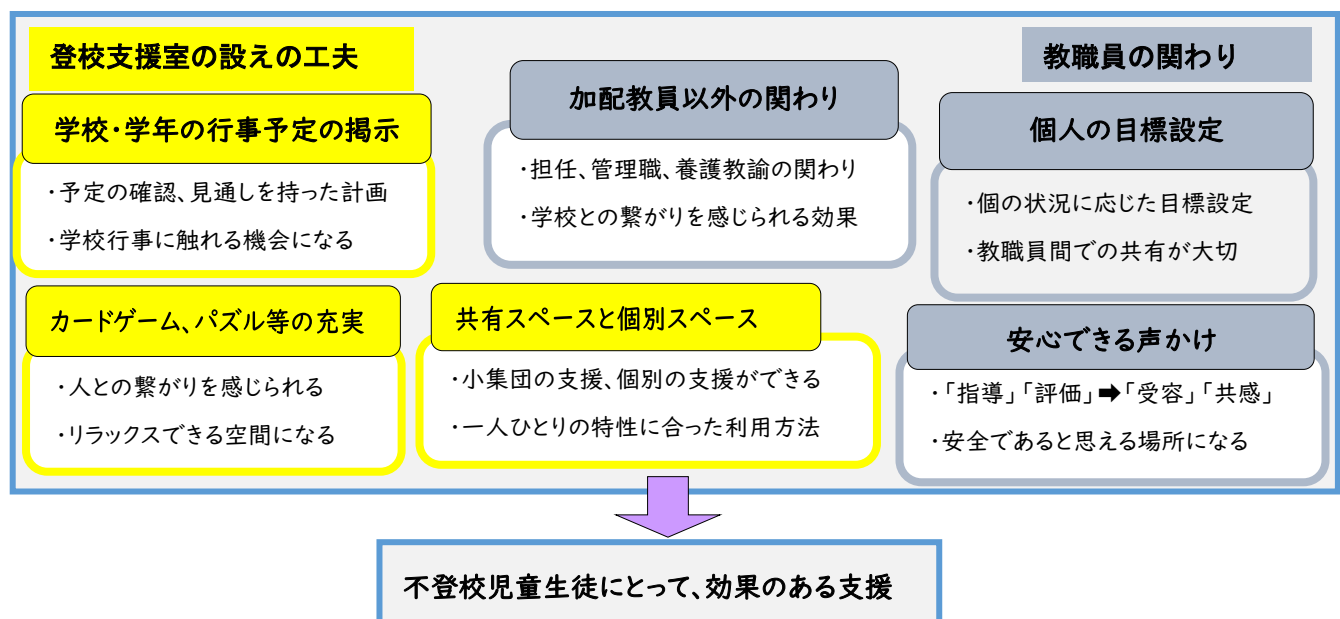
研究の概要

「第3期 草津市教育振興基本計画」(R2～6)では、「不登校児童生徒の校内・校外での居場所づくりを行い、学びの確保と社会的自立に向けた支援を充実する。」と記されている。そこで、本研究では、今年度から新たに草津市内の全小中学校に配備された登校支援室と拡充された登校支援室加配教員についての在り方を探り、不登校児童生徒の支援のためのより良い活用法を示すことをめざした。そこで実際に登校支援室へ行き、実態調査と分析に取り組み、その活用法について検証した。

研究の方法

- (1) 市内小中学校へアンケート(登校支援室の利用について)を取り、登校支援室の使用方法について市内の実態の把握をする。
- (2) 市内の実態を踏まえ、研究協力校の登校支援室に実際に行き、加配教員、教育相談教員、利用している児童生徒等からの実態調査を行う。
- (3) 児童・生徒の登校支援室利用状況をまとめ分析を行う。(10月の1か月間)
- (4) アンケート結果と実態調査から、登校支援室の在り方について考察し、成果と課題をまとめる。

研究の内容 登校支援室の実態調査



検証方法 : アンケートの結果、登校支援室の実態調査より

研究の成果

- 本研究により、次の3点について考察した。
- (1) 児童生徒が教室復帰、社会的自立できるようにしていくために、それぞれの個に応じた目標設定は有効である。またその情報を教員間で共有しておく必要がある。
 - (2) 掲示物等により児童生徒に教室(学校)との繋がりを感じさせることができる。支援室内のスペースの有効活用(共有スペース、個別スペース)で支援の幅を広げることができる。
 - (3) 学習だけでなく、会話やゲームなど他者との関わりに重点を置き、繋がりを意識した関わりは有効である。

研究の課題

- 本研究の実践を通して、次のような課題が見えてきた。
- (1) 小学校と中学校では、登校支援室の利用状況に差異が出てきたので、もっと多面的な分析を行う必要がある。
 - (2) 中学校は1校の調査であり、地域差等を含む分析をしていきたい。
- 本研究の実践には、まだまだ改善すべき点がいくつもある。

研究に協力していただいた皆様へ

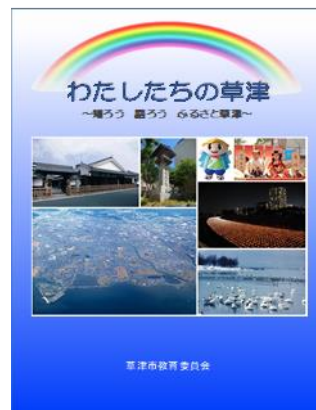
アンケートの御協力ありがとうございました。また、笠縫小学校、草津第二小学校、新堂中学校の先生方には登校支援室を見せていただき、ありがとうございました。本研究の実践で多大なる御協力を賜りました皆様に、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

地域教材(わたしたちの草津)について

令和6年度「わたしたちの草津」編集委員会の活動について

活動の経過

- ・第1回編集委員会……………令和6年5月24日
- ・各委員による作成、見直し、編集作業…令和6年5月～令和6年11月
- ・第2回編集委員会(途中経過報告)……令和6年8月23日
- ・第1回推進委員会(原稿確認)……………令和6年12月26日
- ・第3回編集委員会(全体会)……………令和7年2月13日



活動の内容

令和5年4月に発行された社会科副読本「わたしたちの草津」(部分改訂版)の活用推進のため、令和8年度からの使用に向けた一部改訂(写真データや最新資料の収集・文面の修正等)を行いました。

副読本「わたしたちの草津」

<一部、紹介>

3

安全なくらしを守る

わたしたちのくらしを守るためにまちでは、どこで、どのような人たちが、はたらいっているのでしょうか。みんなて話合ってみましょう。

① 火事から人びとを守る

草津市では、どれくらい火事が起きているのでしょうか。

草津市の火事を調べる

わたしたちの身近なところでも火事は起っています。火事はどのようにして起きるのでしょうか。また、火事を見つけた時にはどうしたらよいのでしょうか。

火災の種類	件数
住宅火災	11
店舗火災	11
工場火災	10
倉庫火災	9
畑の火災	8
森林火災	4
畑の火災	3
その他	2
合計	58

火災の発生状況(2019年～2023年)

年	火災の発生件数
2019年	26
2020年	33
2021年	41
2022年	37
2023年	36

草津市で起こった火災の発生件数(消防本部調べ)

火災の発生状況(2019年～2023年)

年	火災の発生件数
2019年	8人
2020年	5人
2021年	1人
2022年	4人
2023年	5人

草津市の火災による人への被害(消防本部調べ)

火災の発生状況(2019年～2023年)

火災の発生状況(2019年～2023年)

火災の発生状況(2019年～2023年)

自然災害のページでは、東日本大震災から石川県能登半島地震の変更。東日本大震災を知らない児童も多数いることから、内容の変更を行いました。

2018年のデータから、2023年のデータへ刷新。湖南消防からデータをいただいて、更新を行いました。

他県への支援

2024年(令和6年)1月1日午後4時10分ごろ、石川県能登半島地震とよばれる大きな災害が起きました。

草津市は給水車(水を運んだり配ったりできる車)を出発させました。また、避難した人びとを助けるために職員を送りました。かけ崩れや壊れた建物などで道路が通れなくなる中、災害地への到着に大変な時間がかかりました。

現場で活動した職員の方の話

草津市の職員は、石川県能登半島で活動しました。

災害地では、地震で被害を受けた人も被害を受けていない人も、お互いに協力しながら避難所を運営していました。災害時は、協力し合うことで、助け合うことの大切さを強く感じました。

被災者から命を守る取り組みをまとめる

学習をふりかえり、調べた取り組みについて話し合いました。また、草津市役所の防災に関するホームページを見たり、「草津市防災ハンドブック」を読んだりしながら、自分たちにもできることを考えましょう。

他にも、写真のデータや地図のデータなども関係施設に連絡を取りながら変更を行いました。完成したものは令和8年度から使用予定となっております。作成や編集等に携わってくださった皆さん、御協力ありがとうございました。

次年度について

今年度編集をした副読本を基に指導書の一部改訂を予定しております。次年度もどうぞよろしくお願いいたします。



第4回草津市教職員自己啓発講座

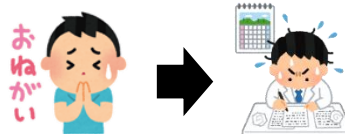
状況に飲み込まれない柔軟で冷静な自分づくり

11月28日(木) イシキ Smoothy 代表 寺岡 佑記 さん

状況に飲み込まれない自分になるために

情報量が多く、変化の多い今の時代にわたしたちはどうあるべきなのか。周りの状況に流されずに自分らしくいるためには、どのようにすると良いのかを教えていただきました。今回の自己啓発講座では、後日合計4回に分けてオンラインで連続講座を行いました。一部紹介させていただきます。

<周りに流されないブレない自分>



周りの人や環境(期待)に応えようと、いつも以上に頑張ろうと思ったり、普段とは違う選択をしてしまったりしたことはありませんか?その期待に応え続けていくと、いつの間にか自分軸から他人軸へと変わってしまいます。そうならないためにも、「ブレない自分」は大切なのです。

<状況に流されない自分づくり>

こんな経験ありませんか?

「誰かと喧嘩をしているときに、普段なら言わないような相手が傷つくような言葉を言ってしまった。」



感情(状況)に振り回された結果、物事を考えずに衝動的に動いてしまう。

自分の心(感情)を
意識することが大切。

<状況を受け入れる自分づくり>

状況を受け入れることができる。⇒自分が納得できているかどうか大切。

「〇〇しないと、〇〇になっちゃう。」・・・ネガティブな選択(他人軸)

「〇〇したいから、〇〇にする。」・・・ポジティブな選択(自分軸)

自分の納得できる選
択をすることが大切。
ブレない自分(意志)

<状況を活かす自分づくり>

状況の変化が起きた時には、しっかりと周りを観察することが大切。

⇒周りを観察して“あるもの”と“ないもの”を見極める。そして“あるもの”を活かして落ち着いて行動することで周りの状況に流されずに行動できる

上記の行動には、共通して「深呼吸をすること」「胸を張って背筋を伸ばすこと」で心を落ち着けることが何より大切です。周りの状況によって自分を見失い、飲み込まれてしまうと、本来の自分を見失ってしまうことに繋がります。大きな深呼吸、胸を張ることを忘れず、自分らしさを大切にしてください。



参加者の感想 満足度 ★★★★★…4名

- 深呼吸や姿勢を正すこと、自分の本来の目的に戻る大切さは感じつつも、ついつい忘れがちになってしまいます。今一度、日々それらを意識して過ごしていきたいと思えました。
- 今回の講座では、自分らしくいることの大事さに改めて気づけました。「自分らしくいる」ことは言葉では簡単に言えますが、実際に行動しようとするとても難しいものだと思います。行動を変えるために、意識を変えて「自分らしく」いれることを当たり前にするよう頑張りたいと思います。



スキルアップ ～授業づくり・学級づくり支援を振り返って

“授業づくり・学級づくり支援”では、対象の先生方の授業を参観し、授業改善のポイントやよりよい学級づくりを行っていくための手立て、手がかりなどについて一緒に学びました。

授業展開の仕方やタブレット PC を含めた教材・教具の活かし方、個々のこどもとの対応や学級全体への働きかけの方法等々、細かなことはたくさんありましたが、「教師主導を離れ、真にこどもにとっての学びを創っていくこと」、「各教科等が持つ本質的なねらいや価値を大切にしたい学びを創っていくこと」、「発達段階や一人ひとりの個性・特性に応じた学習者および学習集団を育てていくこと」を大事にできました。

ときに、先輩教員のご実践をともに拝見できたことや、授業後の協議を学校の OJT の機会にさせていただいたことは“授業づくり・学級づくり支援”にとってとても有効、有意義なことでした。

対象の先生方はそれぞれに自身の“授業改善のめあて”を設け、毎回高い意識で臨んでくださいました。そして、少しずつではありますが、どの先生も間違いなく確かな成長の姿を見せてくださいました。

本年度の対象だった先生方の今後がますます楽しみです。



《対象の先生方の声》 事業終了後のアンケートから一部抜粋》

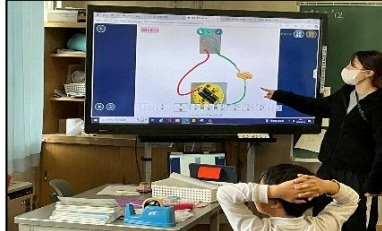
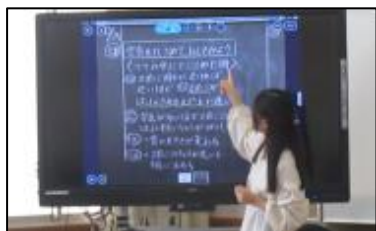
- ・自分では思いつかないような授業の展開例をたくさん教えていただいたおかげで、どのスタイルがクラスの子たちに適しているか吟味しながら準備を行うことができました。また、放課後の振り返りは大変前向きな言葉でフィードバックをしていただき、次の授業のモチベーションにもつながりました。(小)
- ・他の先生方の授業を見に行かせていただき、授業や学級経営について話す機会は貴重で勉強になりました。また、スキルアップ講座の授業を通して、自分の授業の仕方や改善すべき点を振り返る機会になってよかったです。(小)
- ・構成をよく考えた上で授業に臨むことができるようになりました。また、たくさんのアドバイスがいただけたので、様々な観点から自己評価ができるようになり、授業改善の礎になりました。(中)

スキルアップ ～ICT活用支援を振り返って～



スキルアップ ICT 支援では、年間 5 回、対象の教員を支援して授業での ICT の普段使いを目指してきました。授業での ICT 活用方法に悩んでいた教員も、「電子黒板にデジタル教科書やパワーポイント資料を映す」「ロイロノートを使って資料カードを児童生徒に送信する」「児童生徒がインターネット検索できるように指導する」「児童生徒が電子黒板を使って発表できるように指導する」など、ICT を効果的に使った取り組みを展開できるようになりました。

また、「草津市の教員に必要な ICT 活用能力」では、全ての対象教員がレベル 3 (中級) 相当の ICT スキルを身につけることができました。



＜対象の教員の声＞

他市から移動してきて、1 年目で不安であったが、ロイロノートを活用して授業に自信を持って展開できるようになりました。どんな機能があって、どんな活用方法があるかを事前に教えていただいたり、資料をいただけたので、見通しを持って授業を考えることができました。

やまびこだより

☆次世代文化芸術体験☆

♪お茶会♪ 2月5日の文化芸術体験では青地と上笠の両教室から参加者が集まり、一人ひとりが自分で抹茶を点てたり、俄かづくりの茶室でご指導いただいた先生から直接おもてなしを受けたりなど、貴重な体験ができました。



☆お楽しみクッキング☆

青地教室（2/14）上笠教室（2/17）にそれぞれ調理に取り組みました。上笠教室ではホットケーキ生地のカレーづくりに挑戦しました。個人で入れるものを考え仕上げます。出来上がったカレーをその後みんなで美味しくいただきました。



今年度やまびこ教室には44名（青地22名 上笠22名）の児童生徒が在籍していました。先生方にはお忙しい授業の合間に各教室のこどもの様子を見に來たり、各種行事の折に見学に來たりしていただき、ありがとうございました。教室に通うこどもたちも、とても喜んでいました。また、各関係機関の方々にも大変お世話になりました。皆様この1年間、本当にありがとうございました。これからもよろしくお願いします。

相談室から

今年度、やまびこ教育相談室では中学生の相談が増加しました。傾向として、小学校低学年から集団に馴染めず行き渋ったり、中学年頃から学習に対して自信がなくなったり、友だちや集団の中にうまく入れなかったりして、しんどくなるようです。学校や家庭において、こどもたちが出す様々なサインを見逃さずに早期に対応したいものです。

やまびこ教育相談室では、保護者・児童生徒それぞれへの面談を行い、SSWや学校と連携して複合的な要因を整理しながら支援しています。今後ともよろしくお願いします。



SSWの市川先生からお話いただきました。

不登校と保護者 ～ 面談から見えてくるもの ～

こどもが不登校になるのは保護者には青天の霹靂です。最初は学校に行かせようとします。それで行ける子もいます。少し休むだけで、話を聞いて不安を取り除けば、小集団であれば行ける場合もあります。それでも保護者・学校が考えつく限りの手立てを講じても行けなくなる子はいます。原因を問い詰めるよりも心のエネルギーを回復する方が最優先です。

<事例より>

○不登校児童生徒の状態は学校からは見えにくいものです。本人からの言葉がなくても継続的な保護者面談による状況把握やアセスメントで回復への道筋が見えてくることもあります。

小学生男児 母面談 (本人特定できないように一部改変しています)

・昨年、友達とのトラブルがきっかけで休みがちになり欠席が続く。1学期～家族への暴言暴力が始まる。母の子育てに対する自責の念が強くなる。2学期～学校に行かないことを本人が選択。本人の興味関心のあるものを肯定するようにする。暴言暴力が少なくなる。一緒に本人の好きなものを楽しめるようになる。「甘えられるようになった」。3学期～本人がしたいやることが増えてきて実際に行動に起こす様子が見られる。

<回復への道筋>

○保護者を支えることがこどもの自己肯定や安心につながり、回復への近道になる場合があります。

	葛藤期→	安定期(前期)→	安定期(後期)→	回復期
回復過程	・本人含め周りの者も一番苦しい時期 ・行き渋り・五月雨登校 ・学校に行けないことを認めたくない ・親子関係劣悪	・学校に行けないことの受け入れ ・親子とも自己否定が激しく不安が高まる	・興味関心あるものを認めてもらうことで自己肯定感がはぐくまれる ・親子の信頼関係や安心感が高まるが不安はまだ残る	・心のエネルギーが蓄えられ自己肯定感が高まり心身ともに前向きに動き始める。 ・本人がやりたいと思える、できることから始める
本人	「学校は行きたいのに」「行かなくちゃ」「なんで自分だけ行けへんの」「苦しい」「誰もわかってくれない」	「もう学校は行けないムリ」「行けない自分はダメな人間」「これからどうなってしまうんだろう」「みんなどう思ってるかな」	「家にいて(なんか)ほっとする」「行けない気持ちをわかってもらってる感じがする」「でもみんなどうしてるかな」	「やりたい、出かけたいと思うことが増えた」「何かしたいな。でも学校はまだ無理」「誰とも会わなかったら大丈夫かな」
保護者	「学校に行かないってどういうこと?」「行かせなくては」「親を困らせたいのか」「どこか体の具合が悪いんじゃないか」	「この子はもう行けないんだ」「我が子が不登校になるなんて」「自分の子育てが悪かったのか」「これからどうなるの」	「元気でいてくれたらいい」「会話や笑顔が増えた」「今まで甘えられなかったのか」「やっぱり学校には行ってほしい」	「本人の気持ちを大切にしよう」「学校以外に行ける所はないか」「放課後なら行けるかも」「無理させてしまいうんじゃないか」

※すべての不登校児童生徒に当てはまるわけではありません。それぞれが違う人間、保護者です。

本人・保護者対応の際に少しでも参考にして頂ければ幸いです。

シリーズ

司書さんおすすめの絵本



「おおきくなるっていうことは」 中川 ひろたか／文 村上 康成／絵（童心社）

おおきくなるっていうことは、どんなこと？

それは、ようぶくがちいさくなるってこと。あたらしいはがはえてくるってこと。みずにかおをながくつけられるってこと。

園長先生が子どもたちに語りかける形式で、大きくなるとは、自分ひとりでできることが増えていき、自分よりも小さな人が多くなっていくことだと描かれています。

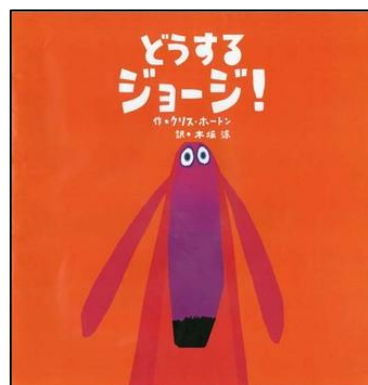
入園や進級の季節に、またひとつおおきくなったこどもたちへのおめでとうの気持ちがつまった絵本です。



「どうするジョージ！」 クリス・ホートン／作 木坂 涼／訳（BL 出版）

いぬのジョージは、留守番の間ひとりでいいこにしていると飼い主のハリスに約束します。ところが、留守番中のジョージの前にはケーキやねこなど誘惑がたくさん。はたしてジョージは、約束通りいいこでいられるのでしょうか。

さまざまな誘惑を前にジョージが葛藤する場面で、毎回「どうするジョージ！」という文とともに、とぼけた顔のジョージがアップで描かれます。ユーモラスなくり返しの展開に笑いながらも、がんばるジョージを見守り応援したくなります。



「ねーねーのしっぽ」 はやし ますみ／作（イースト・プレス）

ねーねーは、ひときわ大きなおたまじゃくしの女の子。いつまでもたってもしっぽがとれず、なかなかかえるになれません。ある日、とうとうしっぽを切ることにしました。こわくなったねーねーは、そっと真夜中に池を出ていくことにしました。

どうして自分だけみんなと違うんだろうと時に不安になりながらも、きっと自分と同じような仲間がどこかにいるはずだと希望を失わずに旅を続けるねーねーに勇気をもらえます。



読み聞かせなどに、ご活用ください

このシリーズは、市立図書館の司書さんのご協力を得て作成しています。

